

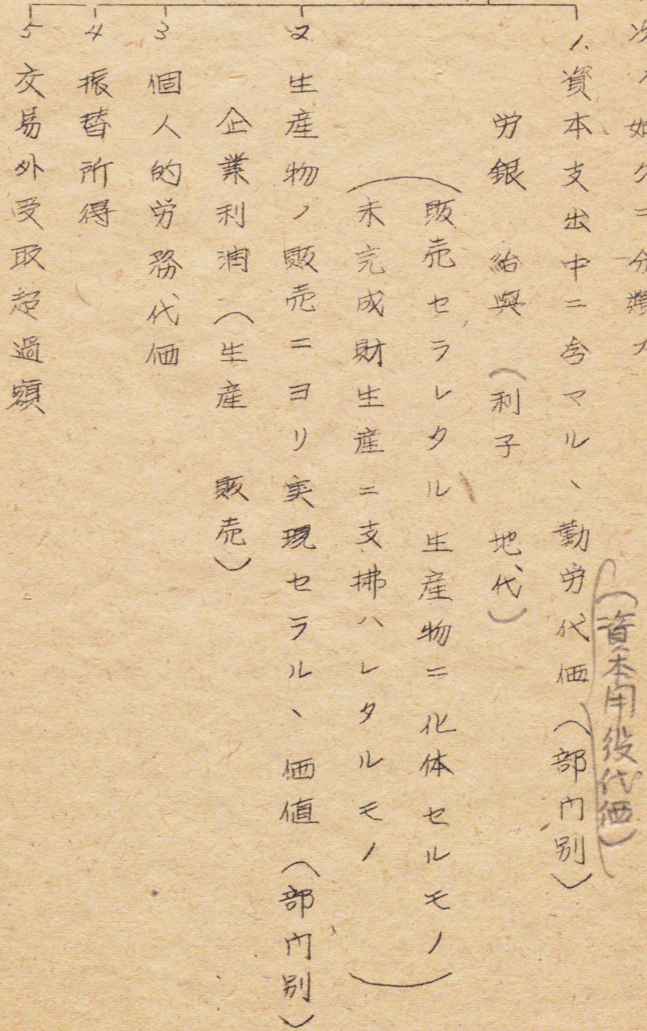
第三部

國民總需要量測定 (所得分配計表)

一 國民所得測定

國民所得ヲ次ノ如クニ分類ス

國民所得



國民所得ノ根幹ヲ為スモノハ、資本循環過程ニ形成セラル、純生産物価値ナリ

純生産物価値ノ算出方法トシテハ、

第一ニ、資本維持ノ觀莫ヨリ固定資本減価償却分並ニ運轉資本中ノ物内支出費ヲ控除セルモノナリ。然レテ控除ハ同一規模ノ再生産ヲ可能ナラシムベク、価格評価ヲ必要トス (インフレーション時代ニハ時ニコノ異ニ着目スルヲ要ス)

第二ニ、控除ニヨリ資本統制ノ範圍ト所得統制ノ範圍ヲ明ラカナランムルモノナリ

第三ニ、控除ニ伴フ若干ノ尚題ノ減価償却費

投資固定資本ノ回収部分タルト共ニ單純再生産ヲ維持スル固定財補充資金ヲ構成ス。尚、当生産期ニ於ケル拡充固定財ノ償却分ヲ總括シテ別途算出ヲ要ス。



又 修繕費

各企業が減価償却費ヲ以テ修繕費ニ充当スル場合多シト雖モ国民経済的意義最ニ別個ニシテ常ニ新投資タルヘキモノナリ  
生産課税ノ間接費

3. 税制ニ変化ナキコトヲ前提トシ、資本維持ノ観点ヨリスレバ、利子 地代 労金ト共ニ回収セラルヘキモノナリ、

国民所得算出ノ立場ヨリセバ控除セラルベキ生産財価額ニ含まル、間接税ハ別途算出シ国民所得中ニ加ヘラルベキモノナリ、

4. 利権ヨリノ支出ト資本支出ノ區別ヲ明快ナラシムル要アリ、

国民所得ハ価値ノ形態ニシテ素材的ニハ消費財（生活財、軍需材）ト拡充財ノ合計ニ対応スルト云フベキモノナリ、

資本支出トソノ循環過程ニ於テ形成セラル、所得ノ外ニ個人的労務供付対価アリ、コレヲ第ニ次所得トナシ算出スルモ、用途別分類ニ

於テ生活必需以外ノ生産財トシ算出スルモ経済構造的把握ニ支障ナカルベシ、

又 国民所得以外ノ購買力

生産資本ノ遊離

商業資本ノ遊離

者在購買力

退職貨幣

過去年度ノ貯蓄

退職助 土地販売代金

家屋販売代金

権利譲渡

資本ノ遊離ハ

イ 生産諸設備ノ用途転換

生産諸設備売却代金總額ハ新購買力ヲ形成スレトモ、用途



口 転換ニ伴フ価値減少ニヨリ供給側ノ總価額ヲ形成セズ。  
 商品取引資本及び証券取引資本ハ企業整備ト共ニ完ク遊離シ  
 購買力ヲ追加ス。

潜在購買力

- イ. 各人ノ貯蓄ハ金融機関ヲ通シテ投資セラレ在ルモ、各人ノ年  
 所得ヲ吸収セラル、結果貯蓄引当盛行使ハ投資ヲ回収セズシ  
 テ支拂ハレザルベカラズ、即チ追加信用ニヨル購買力賦與ノ  
 潜在ヲ示スモノナリ。
- ロ. 貨幣ガ一般の妥当の購買力ヲ表示スルモノナレトモ一切ノ経  
 済財ハ購買力ヲ有ス。特ニ砂糖、<sup>煙草</sup>布類等ガ交換手段トシテ登  
 場スルコトニ着目セラルベシ。
- ハ. 固有財産拂下ゲタルト、民間財産ノ移転タルトチ同ハズ、相  
 当額ノ資金移動ハ追加購買力ヲ形成スベシ。

二 国民所得分配態様ノ測定

職能別地域別国民所得分配態様ノ測定ハ所得再配分計畧ノ基礎ヲ  
 ナスベキモノナリ。「價格ノ不均等騰貴ニヨル偏在購買力ノ測定」  
 勞金給與利権ノ統制外領域ニ於ケル増大ヲ着目スヘキコト、  
 所謂「自由労働者」ノ勞賃  
 近郊農村ノ收益  
 下請業主ノ所得

三 国民所得分配決定計畧

- 一 賃金統制 経済統制ニ於テ、單位價格ノ統制ヲ見タルモノナルモ、  
 總需要ノ測定ト次ノ配分計畧ノタメ分配ノ框ヲ計畧スルコト、
- 二 業種別ニ次ノ要素ノ總價格ヲ決定ス。  
 賃金 事業主所得  
 給與  
 利子



地代  
配当

第四部

配分計画

一 第一部 第二部 第四部 第五部ト、関聯ニ於テ決定セラルベキモノナリ。

直接ニハ第三部ノ国民所得其他購買力ト第二部ノ用途別生産額ノ實現ヲ媒介シ、第一部ノ貨幣資本支出ト、関聯ニ於テ所得ノ資本へノ転換ヲ規定スルモノナリ。

二 配分計画ニ於テ第二部供給總価格ヲ維持スルタメニハ需要超過額ヲ吸收前提シタ上ニテ需給バランスヲ設定スベキモノナリ。

三 資本配分ト共ニ所得配分ガ、資金計画ニ於テ国家意志ノ働クニ基キナリ。而シテコレニヨリ価格ノ構造ハ決定セラル、トコロナリ。自

由経済ニ於テハ資本及ビ労働ノ移動自由ニヨリ経済ノ釣合ガ設定セラレタルニ正ニ対応スベキモノト云ヒ得ベシ

配分ト如何ニヨリ価格体系ハ不可避的ニ亀裂ヲ生ゼザルヲ得ス。体系維持ノ不可欠的條件

イ 国民消費資金（財政中ノ軍需以外ノ消費支出ヲ含ム）ガ国民生活資料總価格ヨリ予備貯蓄繰越額ヲ差引ケル額ヲ超ヘザルコト  
（更ニ地域のバランスヲ保持シ得ルコト）

ロ 国民所得ヨリ国民消費資金ヲ差引ケル残余ノ框ヨリテ、軍需財購入費、未完成財へノ資本支出、価値廃棄的諸費並ニ新投資々本ノ合計ガハミ出サザルコト

以上、最少限要件トシテイロノ條件ガ保持セラレ得ザルニ於テハ価格体系維持ハ悲惨ニモ哀レナル末路ヲトグルハ不可避的運命ナルベシ



物価騰貴ハコノ莫ヨリ不可避的ニ起ルモノニシテ信用膨張ハソノ物  
 価騰貴ノ結果ニシテ原因ニ非ザルコトハ銘記セラルベキナリ。  
 バランス保持ノ條件ハ次ノ如シ。

價格水準維持ノ最少條件

A = 固定財蓄積 B = 流動財蓄積 C = 生活財蓄積

$$\theta_a = \sum k_2 + A \quad A = S_1 a - \{ \sum k_2 - (K_{1a} + L_a + S_{2a} + T_a) \}$$

$$(\theta_a) = K_{1a} + K_{2a} + E_a < A + B + C$$

$$\theta_e = \sum k_1 + B \quad B = S_1 c - \{ \sum k_1 - (K_2 c + L_c + S_2 c + T_c) \}$$

$$\theta_d = (\sum S_2 + \sum T) - \theta_e$$

$$\theta_e = (\sum S_2 + \sum T) - \theta_d$$

$$\theta_f = \sum L + C \quad C = S_1 f - \{ \sum L - (K_1 f + K_2 f + S_2 f + T_f) \}$$

	K		E (0-K)	E				
	K <sub>1</sub>	K <sub>2</sub>		L	S <sub>1</sub>	S <sub>2</sub>	T	
(A)	θ <sub>a</sub>	K <sub>1a</sub>	K <sub>2a</sub>	E <sub>a</sub>	L <sub>a</sub>	S <sub>1a</sub>	S <sub>2a</sub>	T <sub>a</sub>
(B)	(0 <sub>a</sub> )	K <sub>1a</sub>	K <sub>2a</sub>	E <sub>a</sub>	L <sub>a</sub>	S <sub>1a</sub>	S <sub>2a</sub>	T <sub>a</sub>
(C)	θ <sub>c</sub>	K <sub>1c</sub>	K <sub>2c</sub>	E <sub>c</sub>	L <sub>c</sub>	S <sub>1c</sub>	S <sub>2c</sub>	T <sub>c</sub>
(D)	θ <sub>d</sub>	K <sub>1d</sub>	K <sub>2d</sub>	E <sub>d</sub>	L <sub>d</sub>	S <sub>1d</sub>	S <sub>2d</sub>	T <sub>d</sub>
(E)	θ <sub>e</sub>	K <sub>1e</sub>	K <sub>2e</sub>	E <sub>e</sub>	L <sub>e</sub>	S <sub>1e</sub>	S <sub>2e</sub>	T <sub>e</sub>
(F)	θ <sub>f</sub>	K <sub>1f</sub>	K <sub>2f</sub>	E <sub>f</sub>	L <sub>f</sub>	S <sub>1f</sub>	S <sub>2f</sub>	T <sub>f</sub>
(T)	∑θ <sub>i</sub>	∑K <sub>1i</sub>	∑K <sub>2i</sub>	∑E <sub>i</sub>	∑L <sub>i</sub>	∑S <sub>1i</sub>	∑S <sub>2i</sub>	∑T <sub>i</sub>

A = 固定財(完成)生産部門  
 B = 固定財(未完成)生産部門  
 C = 流動財生産部門  
 d = 軍需財生産部門  
 e = 官公收入-軍需財購入費  
 f = 生活財生産部門  
 θ = 總生産物価格(稜然)  
 K<sub>1</sub> = 流動財コスト  
 K<sub>2</sub> = 減価償却

E = 國民所得 L = 生計費 S<sub>2</sub> = 公債 S<sub>1</sub> = 貯蓄-公債 T = 租税



式 = 式

	FK	CK		E(0-CK)		E(0-CK)			0	
		K1	K2	W	P	L	S1	S2		T
a	FKa	K1a	K2a	Wa	Pa	La	S1a	S2a	Ta	0a
a'	FKa'	K1a'	K2a'	Wa'	Pa'	La'	S1a'	S2a'	Ta'	0a'
a	FKa	K1a	K2a	Wa	Pa	La	S1a	S2a	Ta	0a
a'	FKa'	K1a'	K2a'	Wa'	Pa'	La'	S1a'	S2a'	Ta'	0a'
c	FKc	K1c	K2c	Wc	Pc	Lc	S1c	S2c	Tc	0c
d	FKd	K1d	K2d	Wd	Pd	Ld	S1d	S2d	Td	0d
d'	FKd'	K1d'	K2d'	Wd'	Pa'	La'	S1d'	S2d'	Td'	0d'
e	FKe	K1e	K2e		Ee	Le	S1e	S2e	Te	0e
f	FKf	K1f	K2f	Wf		Lf	S1f	S2f	Tf	
Σ	ΣFK <sub>i</sub>	ΣK <sub>1i</sub>	ΣK <sub>2i</sub>	ΣW <sub>i</sub>	ΣP <sub>i</sub>	ΣL <sub>i</sub>	ΣS <sub>1i</sub>	ΣS <sub>2i</sub>	ΣT <sub>i</sub>	Σ0 <sub>i</sub>

- FK = 固定資本
  - K1 = 流動財コスト
  - K2 = 減価償却
  - W = 賃金
  - P = 利潤
  - E = W + P
  - L = 生計費
  - S1 = 公債
  - S2 = 貯蓄—公債
  - T = 租税
  - 0 = 生産額
- 
- a = 設備財生産部門
  - a' = 設備財取扱部門
  - a = 流動生産財生産部門
  - a' = 流動生産財取扱部門
  - C = 生活資料生産部門
  - a = 軍需財生産部門
  - a' = 軍需財取扱部門
  - e = 官公收入—軍需財購入
  - f = 未完成財生産部門
  - A = 固定財蓄積
  - B = 流動財蓄積
  - C = 生給財蓄積

(最終)



價格水準維持ノ最下限條件

$$Oa * Oa' = \sum K_2 + (FKa' + FKd' + FKd') + A - (FKa' + FKd' + FKd')$$

$$A = S_1a - \left\{ \sum K_2 - \left( \begin{matrix} K_1a' + La + S_2a + Ta \\ K_1a' + La' + S_2a' + Ta' \end{matrix} \right) \right\}$$

$$Oa + Oa' = \sum K_1 + B = S_1a - \left\{ \sum K_1 - \left( \begin{matrix} K_2a + La + S_2a + Ta \\ K_2a' + La' + S_2a' + Ta' \end{matrix} \right) \right\}$$

$$Oc = \sum L + C = S_1c - \left\{ \sum L - (K_1c + K_2c + S_2c + Tc) \right\}$$

$$Oe = (\sum S_2 + \sum T) - (Oa + Oa') \quad Oa + Oa' = (\sum S_2 + \sum T) - Oe \quad B = S_1a - \left\{ \sum K_1 - (K_2a + La - S_2a + Ta + K_2a' + La' + S_2a' + Ta') \right\}$$

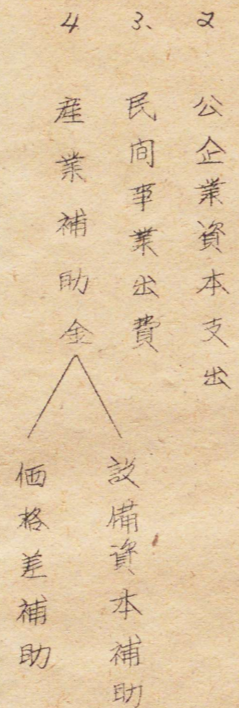
$$K_1f + K_2f + wf \leq (A + a + c) - \left\{ (FKa' + FKd' + FKd') + (K_1a' + K_1d' + K_1d') + (Wa' + wa' + Wd') \right\}$$

配分計画ニ於テハ以上ノ如キ總体的釣合設定ト共ニ各支出項目ノ整理ヲ必要トスベシ、特ニ財政支出ニ関シテハ、ソノ経済性質ヲ明ラカニスベキコト肝要ナルベシ。

四ノ 財政支出計画

財政支出ハ次ノ如ク分類セラル。

- 一 財政消費支出
  - 人件費支出
  - 物件費支出
- 二 公企業資本支出
- 三 民間事業支出
- 四 産業補助金
  - 設備資本補助
  - 価格差補助



右ノ内(2)及び(3)ハ事業資金支出ノ一部ヲ構成シ(4)ノ内設備補助金ハ前貸回収不能ト見做サル、モノニヨリ決定セラルベキモノナリ、財政消費支出ノ限度ヲ決定スベキモノハ、第一部、第二部ニヨリ、財政消費ニ向ケラルベキ物資並ニ配置人的奉仕總量ノ總額ト照応セラルベキモノナリ、財政支出ノノニ相当スベキモノハ再生産的見地ヨリスレバ、剰余ヲ以テ処理セラルベキ部分ニ戻シ価値循環的ニハ一回的ニ廃棄セラルベキ部分トスル



五 生活資金

個人、法人所得、支出並ニ官公支出ニ依ル區別ヲ明ラカナラシムルコト

一、生活必需品購入總額（物資、用役）

人 個人所得ヨリ支拂ハル、總額

又 事業所得ニ依リ支拂ハル、總額

3. 財政資金ヨリ支拂ハル、總額

二、其他生活用品總額（物資、用役）

人 個人所得ヨリ支拂ハル、總額

2. 事業所得ヨリ支拂ハル、總額

3. 財政資金ヨリ支拂ハル、總額

生活資金ニ於テ、ニハ主トシテ經濟ノ再生産ニ貢獻セザル効用ニ屬シ  
価値的ニハ資本維持ノ條件タラス、生産計畫 人的配置計畫ニ於テ極  
力圧縮セラルベキ部分ナルモ、ソノ存在力予定セラル、上ハコレガ經

六 産業資本支出

漸的性質ヲ明ラカナラシムルヲ要ス  
即チ配分計畫ニ於テハ一ノ生活必需品總額ガ生活資料ノ生産力トノ見  
合ニ於テ設定セラルベキモノナルモ、ニノ其他生活用品總額ハ國民所得  
ノ剩餘ノ存在ニヨリテノミ許容セラルベケレバナリ

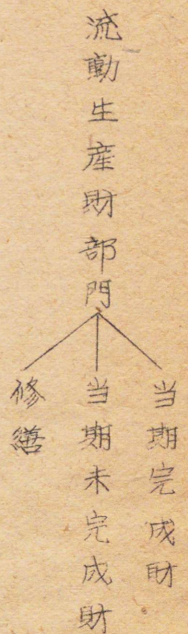
事業資本計畫ニ於テ前提セラレタルモノナルモ当部ニ於テハ經常投資

ト新投資トノ區別ヲ設クルヲ要ス

新投資ハ左ノ分割向ニ釣合保持ヲ要スバシ







新投資ノ資本配分ニ変更アル場合ノ經濟組成的影響ニツキテハ補遺ニ於テ示ス如シ (第十七表)

七、予備貯蓄、吾國、統制會ニヨリ保有セラルベキ物資購入資金、第五部

金融計畫

金融計畫ハ資本並ニ所得ノ配分ヲ実行スル方式ニシテ、第一部並ニ第四部ノ基準ニヨルモノナリ、且ツ金融計畫ハ第六部ノ組織計畫ト一體ニ決定セラルベキモノナリ。

1. 金融計畫ハ所得ヲ政府購買力ニ移転セシムルコト 並ニ貨幣本ニ転換セシムルコトヲ第一ノ任務トナス (貯蓄計畫、租稅計畫)
2. 金融計畫ノ第二ハ財政、産業ヘ、貸付ヲ決定スルコトナリ (公債計畫、投資計畫)
3. 金融計畫ノ第三ハ前項ニヨル信用割當ニ基キ信用口座ヲ設定スルニアリ、コレニヨリ、財政短期計畫ヲ設定シ、財政計畫トノ關係ヲ明ラカナラシムルモノナリ、(並ニ産業資金)
4. 金融計畫ニ於ケル綜合計畫、個別信用計畫ト並ビ通貨計畫ヲ樹立シ、家計並ニ小額取引ノ爲ノ貨幣收支ヲ統制スルコト
5. 追加信用ノ許容ハ全計畫ノ破壊ナリトモ配分計畫ノ不貫徹ハ不可避的ニ物価騰貴ヲ媒介トシテ追加信用ヲ駆立ツル運命ナルヲ以テ、ソノ影響ヲ極力弱メル方策ヲ要ス、但シコノ項目ハ全計畫ニ對シ体系外ノ追加ヲ構成スベキモノナリ。



(一)

貯蓄計画

包括的ナル貯蓄ノ節約計画ハ、年總生産物価格ヨリ国民ノ现实的生計費總額ヲ控除セル全額ヲラシメザルベカラズ

新貯蓄ノ対象タル要因ハ次ノ如シ

左ニ示スハ吸收順位ニシテaヨリdマデハ經常的ナルモ軍需補充ノ状況ニ依ジエ以下ノ吸收ヲ準備ス

- a 設備費用ニヨル資金
  - b 設備費用が原材料化セル場合ハ買上価格ト利用価格ノ差
  - c 潛在購買力中現実化シ得ルト推定セラル總額
  - d 国民所得中總生計費ヲ差引ケル總額
  - e 減価償却相当分
  - f 總生計費中第二次生計費
  - g 計画年度ニ於ケル流動財補充予定額
- 又 資金計画遂行ノ條件トシテハ貯蓄ニ対シテハ次ノ実行ヲ迫ル

イ 国民所得以外ノ購買力ノ全部的吸収

ロ 超過利潤ノ全部的吸収

ハ 退職貨幣ノ可及的吸収

ニ 都市ト農村生産部門間ニ一方ノ貯蓄増ハ他方ノ貯蓄減トシテ現ハル、突ニ着目シ、貯蓄ノ全量ヲ集中化シソノ配分ヲ資金計画中心当局ノ意志ニ委ネラレ得ルコト

ホ 貯蓄率ノ上昇ハ専ラ生活財ノ価格騰貴防止ノ見地ヨリ為サル、コト

ハ 投資ニ対シテ常ニ貯蓄ガ先行シ得ル如ク時期ノ計画ガ立テラル、コト

3. 貯蓄ノ節約ノ種類別ニ表示セバ次ノ如シ

- イ 租税 献納金 (個人 法人別)
- ロ 金融機関預貯金 ( " " )
- ハ 直接投資 ( " " )
- ニ 手持退職金 ( " " )



イ 租 税 額

資金計畧ガ租税額ノ決定ニ与ヘウル基準ハ、相対的ノモノナリト  
虽モ範圍ハ国民所得ヨリ国民生活資金、産業拡充資金ヲ控除セル  
範圍ニ屬サシムルコトハ当然ナリ。当該年度ニ於ケル資本ノ集中  
企業合同、及び所得分布ノ変動ヲ考慮シ、右ノワケ内ニテ直接税  
ノ總額ハ決定セラルベシ。

資金統制ノ高度段階ニ於テハ間接税ハ廃絶セラルベキ運命ニアレ  
ドモ、間接税ハ貨幣的国民所得ノ配分トシテテハナク、追加トシ  
テ現ハル、コトヨリミテ、資金計畧ノ見地ヨリハソノ抑制が覆ハ  
ル、モ当然ナリト云フベシ。

直接税モ賃金給与ノ引上ノ動因タルベキモノナレバ租税計畧ハ分  
配統制トノ關係ヲ示スコト

ロ 金融諸機関貯蓄計畧

資金計畧遂行機関トシテノ金融機関ノ整備配置ヲ前提トナセバ、

直接投資ハ極力圧縮セラレ資金計畧遂行機関トシテノ金融機関ニ  
集中セラルベキモノナルベシ。  
第六部組織計畧ニ示セル如キ、金融機関別貯蓄計畧ノ実行ヲ示ス  
ベキコト

(二) 投資計畧

資金計畧ハ投資ヲ貯蓄ニ一致セシムルニアリ。即チ投資計畧ハ貯蓄計  
畧ノワケ内ニ於テ処理セラルベキ要請ヲ有スルモノナリ。計畧ガ所謂  
機動性ヲ示シ得ル前提条件ナリ。

イ 公債

官公債上金

ロ 株式

社債

貸出金



自己投資  
退藏金投資

ハ一 国外投資

又 資金計画ノ投資ニ対スル要請次ノ如シ

資金計画ニ於ケル投資計画ハ從ヒテ当然ニ財（物及ビ利益）ノ価格水準維持ニ於ケル存在量ト対応セザルベカラズ

投資計画ハ集中的ニ一意志ニヨリ決定セラル、コト

(三) 金融（信用）個別配分計画

金融個別配分計画ノ趣旨トナストコロハ、金融ニヨリ無條件自由購買力ガ造出セラル、コトヲ廢絶シ、財政産業ノ各單位別ニ用途商号便益別ノ口座ヲ設定スルニアリ

人 政府ノ貨幣收支計画

政府資金ノ收支ニツキ四半期計画ヲ設定シ經常支出ニツイテハ支出用途ヲ定メ流用ヲ禁スルコト、コレガ遂行組織ハ第六部ニ於テ説明

スベキコト

又 各種財団法人ノ收支計画

特定金融機關ニ用途別口座ヲ持ツベキコト

3. 企業運轉資金計画

人 事業資金總量ニ就キテハ第一部ニ於テ生産計画ノ關係ニ於テ概定

セラレタリ

本部門ニテハ主トシテ運轉資金計画ヲ各産業部門別各企業集團別ニ樹立スルヲ要ス

○ 運轉資金ノ總額ハ第一部ニ於テ算定セラレタルモノナルモ、任意ノ

期間ニ於ケル所要量ヲ算定スルコトハ資本ノ回転トノ關係ニ於テ決定セラルベキモノナリ、本計画樹立ニ當リテハ資本ノ回転期間測定

ヲ出發點トナスヲ要ス

特定金融機關ハ企業ノ借入金並ニ自己資金ノ用途ヲ監視シ、スト

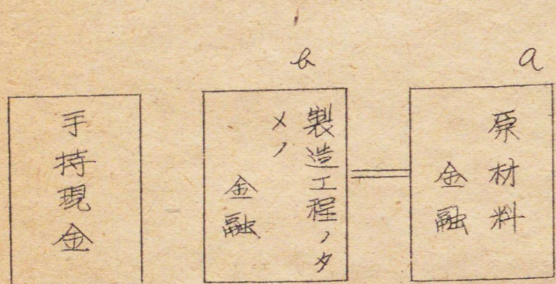


クノ過度ノ買ダメ 法定価額外ノ取引 運転資金ノ固定資本化 其  
 他浪費ヲ防止スルコト 資金計画遂行者トシテノ金融機関ハ無條件  
 購買力ノ金融ヲ行フモノニ非スシテ 特定財ノ特定量ニ対スル法定  
 価格ニヨル支拂ヲ行ハシムルニアリ  
 以上ノ目的ノタメニハ商業手形ハ廃絶スルコト 手形割引ハ企業向  
 ノ自由取引ノ結果ヲ受身ニ金融スルモノニシテ計画金融トハ正ニ  
 背馳スルモノナレバナリ 又原則トシテ小切手ニヨル預金通貨ノ流  
 通ヲ禁ジ 当座預金ハ現金收支ノ必要限度(貸金給与 小額取引)  
 ニ止ムルコト

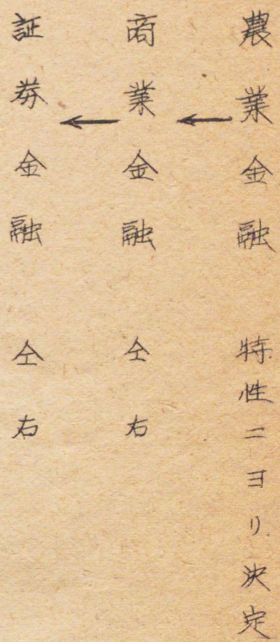
工業金融

- 一 計画ハ次ノ条件ヨリ成ル
- ノ 予定計画 原料料購入 労賃
- 計画的貸付ノ平均期間
- 又 非予定的計画……計画ノ編成替ヲ行ヒ得ザル諸事情ニヨリ緊急ニ

- 追加原材料 下請 労力ノ追加ニ対スル自由主
- 義容認部分
- 生産行程ノ予想外延長ニヨル追加資金ノ要求
- ニ 各企業ニ対スル信用ノ限度決定規準
- 一 四半期毎ニ各会社ハ資金繰予定表ヲ作成スルコト
- 種類別設定







四六

通貨計限

通貨計限ニヨリ対象トセラル、ハ、現金並ニ小切手ナリ。  
 信用統制ノ以上ノ如キ遂行ヲ前提トセバ現金ノ支出ト回收ハ主ニ家  
 計ヲ中心トシテノ動キニヨリ決定セラルベシ。企業間並ニ企業ト国  
 家間ノ現金収支ハ一定限界以下ノ小額ニ限ラル、トナスコトハ前記  
 セリ。

要左ノニ表、如キ測定ヲ基準トス。

國民現金收入(月別、四半期、地域別)

	國家ヨリ個人ヘノ支拂	企業ヨリ個人ヘノ支拂	個人ヨリ個人ヘノ支拂	個人預金引込額
労金 (着手当ヲ含ム) (支拂期前別) 俸給如ク (着手当ヲ含ム) (支拂期前別) 利息 補助 (各種) 金 子 貸 助 料 (年 金) 利 質 補 扶 保 謝 送 内 配 当 除 礼 金 金 金 費 入 獨 立 小 經 営 者 ノ 收 入				

四七



國民現金支出 (四半期 地域別)

	個人ヨリ官公機關へ	個人ヨリ企業 其他へ	個人ヨリ個人へ	貨幣貯蓄
租税 (其他納付金)				
債券				
株式				
現持				
金				
植料				
用品				
消費				
住宅				
交通				
娯楽				
その他				

通貨計量ノ目標

- 一 賃金 給与ノ法定額維持
- 二 國民生計費ノ標準設定
- 三 生活用物資 用益ノ法定額維持
- 四 右ニ條件ヲ充足スルニ必要程度ノ通貨量ノ決定